



イメージ  
キャラクター  
投票中



ニュースタイトル  
投票中

第2号

2025年7月23日

発行：現地実行委員会

事務局・広島自治労連

電話 082-243-9240

Email hjrouren@urban.ne.jp

## 第2回現地実行委員会、第3回組織内実行委員会で 歓迎行事や現地分科会を協議

7月5日（土）、オンライン併用で「第2回現地実行委員会」を開催し、計17名が参加しました。

開会にあたり、中石現地副実行委員長は、豊かな保育をすすめる会の中で「運動を進めていくにあたり、公立保育士は自治体を背負っていると感じた」と言われたことを紹介し、住民のために仕事をしていることが伝わった、若い保育士を自治研に誘っていききたい、とあいさつしました。

### □ 生きる権利を保障する社会に □

現地実行委員会前半の学習会では、広島県民医連事務局長（現地副実行委員長）の村田良二さんが、医療、介護を取り巻く情勢を話されました。



村田さん

はじめに、民医連は無差別・平等の医療と福祉をめざす組織と紹介。「生きる権利」とは人権であり、人権を無視することが戦争につながり、戦争になるとさらに人権が侵害されると、現在の世界の動きへの危惧を示されました。

また、「健康」とは、単に病気やケガがないことではなく、社会とのかかわりの中で、生きがいや目標に向かうことができる状態と話されました。川の流れに例え、流されて来た人を下流（病院）で引き上げて治療しても、上流（社会）で戦争や感染症蔓延などの状況が変わらなければ何度でも流されてくる。この原因の解決は病院ではなく政治で行っていくものだと言われました。

しかし政治では、「医療費の適正化」と言って国民負担を増やそうとしながら、早く退院させなけ

れば病院の収入が減る診療報酬とし、赤字で閉鎖する病院が増えていると話されました。医師・看護師不足に加え、病床削減も進められており、治療を受けたくても病院がなくなる、住民の命と健康が脅かされていると実感する学習となりました。

### □ キャラクター&タイトル投票開始 □

浜崎現地実行委員会事務局長から全国共同実行委員会の報告と、イメージキャラクター6件、ニュースタイトル11件の応募があったことを報告しました。

多彩な作品が集まったことから応募は締め切り、7月10日（木）から8月20日（水）を投票期間と決定しました。組合員や現地実行委員会の構成員に投票を呼びかけ、獲得票数で最優秀賞と特別賞を確定します。すべての作品は右のフォームから確認できます。ぜひみなさん投票してください！

[投票フォーム](#)→



自治研ニュースタイトル  
&イメージキャラクター  
投票フォーム  
期間：7/10～8/20



<https://forms.gle/jcJTdEPwDxCPP3t28>

### □ 広島ならではの企画めざす □

現地分科会についての議論では、①軍都広島に加害と被害、②豪雨災害から学ぶ が候補として挙がりました。広島には、どちらも複数のフィールドワーク候補地があります。今後の現地・組織

内実行委員会で具体化します。

歓迎行事については、「この子たちの夏(朗読劇)」や全障研の文化行事である合唱構成、2月の保育

全国集会で演奏した「広島ジュニアマリンバアンサンブル」などが候補に挙げられました。

### 第3回広島自治労連組織内実行委員会

## 広島だからこそ 何を伝えたいか

7月9日(水)、オンライン併用で、第3回広島自治労連組織内実行委員会を開催しました。会場の広島自治労連会議室に10名、オンラインでは中国ブロック各県や自治労連本部からのオブザーバー参加など11名が参加しました。

中石現地副実行委員長のあいさつの後、浜崎現地事務局長から、第2回現地実行委員会での協議や承認内容について報告しました。

### ■ 現地分科会について意見多数 ■

現地分科会の協議では、現地実行委員会でも出された案を受け、意見が出されました。

- 広島で開催するからこそ、被爆証言や碑めぐりをしてほしい。
- 被爆者もいま語らなければと思われている。いつも時間が足りないくらい。分科会だとしっかり時間がとれるので良いと思う。
- 分科会だと、参加者の一部にしか聞いてもらえない。時間は限られるが、全体会で行うことで、すべての参加者に聞いてほしい。
- 広島への加害を学ぶことは、原爆が落とされたことを正当化することにならないか。被爆の被害を学べば良いのではないか。
- 外国に核兵器廃絶を訴えに出たとき、原爆被害だけ訴えても、加害者でもあったらと言われて、議論が止まってしまう。加害についてきちんと知っておくことで、そこに對抗できる。
- 自分は学習して、今では「加害」という言葉も当たり前前に受け止められるが、違和感を持つ人がいることに改めて気づけて良かった。どういう言葉を使うか、もう少し議論していこう。



広島自治労連で作成中のボード。組合員のみなさんが折った鶴で、虹と平和のメッセージを表現します。



広島自治労連会議室から参加したみなさん

議論を経て、現地分科会のテーマは、①戦争と平和 ②豪雨災害 とすることが確認されました。具体的な名称と内容は引き続き協議していきます。

### ■ “自治研” が少しずつ形になる ■

現地分科会以外の分科会・講座についても意見が交わされ、今後の会議資料に反映されます。分科会の具体的な内容は、それぞれの運営委員会で決まります。記念講演については、現地からの意見として共同実行委員会に伝える内容が確認されました。そうして意見を交わし、内容を確認する中で、自治研が何をやる場なのか、そういった形で運営されるのかが、参加者に少しずつ理解されていきました。

最後に8月27日(水)の第4回組織内実行委員会と、11月29日(土)の合同実行委員会について確認しました。中石執行委員長より、「いろんな意見を交わせた。これから少しずつすり合わせた。広島で開催する自治研だからこそ、現地の組合員のみなさんが元気になるものにしたい。これからは意見を出し合っていきましょう」とあいさつがあり、実行委員会を終了しました。

## 第18回地方自治研究全国集会 in 広島

2026年10月3日(土)~4日(日) 広島市内

10/3 全体会:アステールプラザ 10/4 分科会、講座:アステールプラザ、文化交流会館、国際会議場